



大水槽。高さ5メートル、幅12メートル、総水量266トンの淡水では日本最大級の水槽。チョウザメの仲間やサケの仲間を1年中見ることができます。

から100年以上続くもので、水車が回る風景は市民や観光客に長く親しまれています。

千歳川、サケ、インディアン水車、どれも千歳の歴史とともに歩む貴重なまちの財産です。



サケのふるさと館は、年間を通してサケなどの生態を知り命の尊さと千歳川の自然を学ぶことができる水族館です。

館内では、いろいろな水槽で千歳や北海道周辺のたくさんのお魚たちに出会うことができます。

サケの稚魚が群れてさまざまな形をつくり、銀色の光を放つサクラマスがきらめきながら美しい姿で泳いでいます。

館内でもっとも大きな水槽では、サケの仲間を中心にいろいろな魚たちが悠然と泳いでいます。

イトウやマスにまぎってひととき大きな魚がいます。これは、シロチヨウザメのメスで、名前は「ハクちゃん」。館で一番の長生きです。昨年、20歳を記念して公募で名前がつけられました。体長2メートル、体重60キログラムの大きな体でゆったりと泳いでいます。二世の誕生が期待されています。

午後3時。えさの時間です。大きな魚たちが競ってえさを食べる姿は迫力満点。魚たちが幾筋もの気泡の流れをつくり、渦巻いて競演します。心が引き込まれるような光景が繰り広げられます。